

10月18日 全校朝会（ミーティング）



「もったいない」という言葉を見直そう

おはようございます。昨日は北海道では雪が降る寒さでした。東京でも今週は寒いと感じる日が増える予報です。油断して風邪をひかないように気をつけましょう。

さて、日本語に「もったいない」という言葉があります。例えば、図工の時間に色画用紙を切り取って少しだけ使った後、残りをどうしていますか。まだ使えるのにそっくり捨ててしまうのは「もったいない」ですね。学校ではリサイクルの箱に入れて、少しだけ必要な時はその箱から探して使うようにしています。そうすれば、色画用紙を無駄なく使うことができます。また、まだきれいな上履きを履けなくなったからといって捨ててしまうのは「もったいない」ので、忘れた人への貸し出し用に寄付してもらうこともあります。

「もったいない」という言葉は、物を大事にすることに使われるだけではありません。やればできることを簡単にあきらめてしまうのは「もったいない」とか、今やればできることを先延ばしにしてしまうのは「もったいない」などのように、能力や時間を十分に生かせないような時にも使われます。「もったいない」という言葉には、昔から物や時間を大切に、自然に感謝しながら豊かに暮らしてきた日本人の心や生き方が表れています。

みなさんは、「もったいない」という言葉をどんな時に使いますか。「もったいない」という言葉は、日本で生まれた素晴らしい言葉なのに、最近では、昔ほど「もったいない」という言葉を使わなくなったように感じます。私たちの周りには食べ物もたくさんありますし、物もたくさんあります。給食の食べ残しが毎日大量のゴミになっていることや、名前のない落とし物が毎年大量に捨てられていることも、とても「もったいない」ことです。

今、地球の環境を守るために、日本の「もったいない」という言葉が世界で通用する言葉になっています。地球の空気や水を汚さないことや限りある資源を大事に使うためには、「もったいない」という気持ちが大切だということで、「もったいない運動」が日本でも世界でも行われているのです。

「もったいない」という言葉を見直してみましよう。そして、一人一人が自分にできる「もったいない運動」はどんなことか考え実行してみましよう。

今日は、「もったいない」という言葉を見直そうというお話でした。